



令和5年度 幼児教育研修（資質向上 加藤ゼミ 第3回）

「心の育ちと対話する保育実践」

日時：令和5年10月26日（木）15:00～17:00

会場：足立区梅田地域学習センター

講師：山梨大学 名誉教授 加藤 繁美 氏

2回の研修を受け、研修生は「自分が保育で一番大事にしているもの」を意識しながら、「シナリオ型実践記録」が書けるようになってきました。第3回目のゼミは記録の中の意味づけについて学びました。

記録の中には山がある

事例には、どんな意味が込められているのだろうか。
保育の中で大切にしていること明確にしていこう。

ポイント



振り返りは、**意味づけ**することが大事である。



実践記録 1

～A君とB君の関わりの記録～
『めろんじゃん!』（4歳児）

副題 ～人の成果を自分のことのように喜べる～

井型ブロックで遊んでいるA君とB君。

A 「丸にしたいんだよ～」
保「なんで丸にしたいの？」
B 「だってめろん作ってるから」



作っている間、AとBの間で会話はほとんどない。
ブロックを隙間なくまっすぐつなげていくのではなく、球にするために少しずつ角度をつけながら調整している。

A「先生、ここが丸くなればいいんだけど・・・」
保「こんな感じ？」
ブロックに沿って手で球を再現する。
A「そう、ここ？」
ブロックの角を一つ一つ調整していく。

A「できた！」
はにかみながら言う。両手で皿を作り、その上にめろんを乗せる。
B『これ、めろんじゃん!!』
二人で顔を見合わせて微笑み合う。

心の理論

4歳半くらいに形成される、
相手がどんな心もちでいる
かを読み取ることができる

分析のポイント



保育者は、二人のやりとりを見守り、何がしたいのかを聞きだしている。しかし、「こんな感じ?」と全てを手伝わない。

意味づけ→失敗してもいい。見守ることで、A君とB君が同じ空間の中で何を
感じているかを見取りながらその場を共有すること。

「これ、めろんじゃん!」の一言に、自分の物ができていなくても、**人の成果を自分の
ことのように喜べる**4歳児の育ちが表れている。**4歳児の共感世界の育ち。**

実践記録 2

～覚えた言葉を間違ったシチュエーションで使いたい2歳児～
『小さい??』 (2歳児)

園庭で埋まっているどんぐりに気が付く。

A 「あっ! どんぐり!(指でほじって)とれない」

保 「取れないね、埋まっているし」

A 「待ってて」

砂場に行き、土を掘る物を探しに行く。

A 「あったよ」

砂場からおたまをもってくる。

A 「でてこないね。もっと小さいのもってくる」

今度は取っ手付きの小さなお鍋をもってくる。

保 「今度はでてくるかな」(小さいのって言ってたけど、まあまあ大きい鍋だな)

A 「掘れない! 今度は小さいのもってくるね」

コップをもってくる。

保 「もっとたくさん掘れるといいのかな」(シャベルに気がつくような声かけをする。)

今度は型抜きをもってくる。

A 「やっぱり出てこない」



分析のポイント

意味づけ→「小さい」にこだわっているのはなぜか。



2歳児くらいになると、「大きい」「小さい」の言葉はわかるようになるが、比較概念のため、理解するには難しい。言葉の意味はわかっていないが、何となく分かっている。この時期の言葉を「前意味的言語」という。

実践記録 3

～寡黙である1, 2歳児のおもしろい記録～
『ジツ』 (2歳児)

ボールを見付け、テラスの段差(2段)にもって行く2歳児S君。

テラスに置いたボールが転がり、追いかけて取りに行く。取ってきたボールをテラスに置くが、また転がりボールを追いかけていく。何度か繰り返す。

ふと、滑り台に行き階段の上から2段目のところにボールを置くと、階段を下りて斜面の方に移動する。

何かを確認するように、斜面をジツと見て、また階段に戻る。

置いていたボールを滑り台の上から、斜面を転がす。

ボールの行方をみて、喜んでいる。

ボールを追いかけて、また階段に置き同じ動きを繰り返す。

分析のポイント

意味づけ→子どもは実験家である。



ボールが止まったり、転がったりするのはどうしてなんだろう?と疑問をもつと、それを黙々と試してみたいくなる時期である。探究的世界の中で物事には法則があることを学んでいく。言葉にはならないが頭の中で意味をもっている。

研修生の報告書より

記録をすることは、振り返りにもなり、子ども理解につながる。どういう意味につながっているのかを考えると、自分が保育の中で大切にしていることが分かってくると感じた。

実践記録があることで、子どもの成長に気が付いたり保護者や保育者と話す時にも説得力がもてたりすることを学んだ。また、子どもたちに伝える時には、絵を用いたり身振りでわかりやすく伝える大切さがわかった。